

令和6年度 第2回学校運営協議会議事録

- 1 開催日時 令和6年9月25日(水) 14:40~16:30
- 2 開催場所 岩手県立大東高等学校 会議室
- 3 参加者 校外委員7名、校内委員5名、校内事務責任者1名、総務主任代理1名
- 4 次第 別紙資料表紙の通り
- 5 校長あいさつ
 - ・今年度は51名の新生を迎え、総勢161名でスタートした。
 - ・5月高総体、6月クラスマッチ、7月野球全校応援等各行事で生徒たちが全力投球し、笑顔で学校生活を送っている。
 - ・夏季休業中は、3年生は連日の夏期講習、1,2年生は各種ボランティア等に参加した。
 - ・これからは検定シーズンに入り、情報ビジネス科は各種資格取得に励んでいる。
 - ・陸上部はやり投げで県2位。今週青森で開催される東北大会に出場する。
 - ・野球、ソフトボール、音楽部は他校との合同チームで大会に参加している。
 - ・各部とも部活動指導員や外部コーチの指導のおかげで充実した活動ができている。
 - ・長欠からの進路変更者もいるが、概ね順調に上半期を終えている。
 - ・魅力ある学校づくり、良い学校の在り方について、本日お集りの皆様からご忌憚のないご意見ご提案をいただきたい。
- 6 令和6年度前期活動報告(説明は資料のとおり。質問なし)
- 7 協議(説明は資料のとおり)
 - (1) 大東高校の志願者確保に向けた取り組みについて
 - 〈E委員〉

7月の出前講座に中学生を招いていただき感謝している。生徒の反応は大変良好で、特にも、高校生からの発信が良かったようだ。直接知っている先輩の活躍している姿から受ける影響は大きい。生徒全員と面談をしているが、3年生の高校選択基準は①将来の目標、②部活動、③兄弟が居る、の順で、ほぼ確定している。まだ進路について考えの固まっていない1,2年生をターゲットに生徒同士の交流を行うことが必要ではないか。

通信陸上に参加する際、専門的に指導できる教員がいないので高校生と一緒に活動する機会があると良い。
 - 〈B委員〉

パンフレットは中学生へのアピールなので、引き続き力を入れてほしい。

中学校にない部活動(陸上)の交流等、附属中学校ぐらいの感覚でぜひ行ってほしい。

〈F 委員〉

出前講座の際、企業連絡協議会に声がけをしていただき感謝している。今回は 4 社参加させていただいたが、まだ他にもやりたいという企業があるので機会があったら又連絡をいただきたい。1 年生対象に企業訪問・視察の検討をしていただきたい。対応は可能。

大東フェスへの協力に感謝。高校生の企画、行動が素晴らしかった。

〈C 委員〉

大東中の生徒が減っている。学校の魅力とともに地域の魅力も併せて発信していかなければならない。

〈G 委員〉

大東フェスティバルへの協力に感謝。雨で残念だったが、入口で高校生が呼び込みをし、盛り上がった。地域の人たちが高校生の活動を見ている。ボランティアの活動等を通して認知度が拡大するように、うまく広がっていくと良い。

〈D 委員〉

1 年生の総探の授業で 51 名と格闘中。生徒と地域の交流の場づくりについて後ほど提案したい。

〈A 委員〉

大人が自分の地域を自虐している。「大東にいてもなあ・・・」他地域では聞かない言葉なので払拭しなければならない。I L C は最近低調だがまだ諦めるときではない。東北 I L C 事務局の大平氏は講演会の実施も可能。

(2) 地域や関係機関との連携〈「社会に拓かれた教育課程」の実践〉について

〈F 委員〉

「大原にぎわい市」が 11 月 3 日に予定されている。今年も野球部、DjoB、鹿踊部に協力願いたい。

〈B 委員〉

体験入学の生徒が 41 名減ということだが、志願者数も減少するのではと心配している。

〈A 委員〉

高田松原のボランティアについて、学校からの働きかけで活動しているのか。

→県の高校魅力化事業として、3.11 桜ラインの植樹とともに草刈り作業を継続して実施している。

(3) 中間反省会議について

〈A 委員〉

生徒は本を読んでいるのか。

→図書館の利用は例年より多い。

〈B 委員〉

学校図書館の重要度は高まっている。小中とも力を入れている。図書館は安らげる環境であることが大切。古い図書館を使いやすくする工夫(ハード面も含め)が必要。学校図書館支援員がいると良い。

〈E 委員〉

中学生のアンケートでも読書は楽しいという回答が多い。大東中には読書普及員が配置されている。学校の教育環境には、お金をかけてほしい。

〈校長〉

学校司書の配置について、岩手は遅れているのが現状。(山形県は完全配置)

〈A 委員〉

学校の困りごとを、(地域など外部に) 伝えることも大事。

(4) 生徒と地域の交流の場の創設について

〈D 委員〉

子どもの減少は切実なものになっている。机上の論から具体的なアクションを起こす時期に入っている。大人の本気度を示し、子どもたちと協同することが必要。

高校生を巻き込んでの地域おこし。卒業前に地域に関わる機会を作る。やりたいという生徒の気持ちを大人がサポートする。

子どもたちへ誰がどう持っていくか、大人たちがまず話し合う機会を設けたい。ゆっくり準備していきたい。

〈A 委員〉

摺沢駅の旧売店の空き部屋は利用可能。活用方法の検討。

それぞれに人脈があるので、気軽に相談していただければ、色々なところにつながるだろう。

〈D 委員〉

無人駅の活用は全国的な課題だ。地域活性の取組に、企業の方も巻き込んでいけると良い。

(5) その他

〈E 委員〉

中学3年生よりも、中学1, 2年生へのアプローチが必要。ボランティアと一緒にする、情報ビジネス科の生徒による出前授業をする、新執行部(2年生)と高校生で来年度のビジョンを話し合う等、中高の交流を図りたい。